

6月から報告ができませんでしたので、8月までまとめて報告します。

## 6月

### 1. 献品 ①衣類・紙袋類(高校職員) ②米(高校職員) ③米(高校職員)

これらは6月11日の炊き出しで使ってもらいました。

2夜回り(6月8日) 国際センター裏の橋の下に洞窟があり、そこに二人住んでいたのが調べよとのことだったので、懐中電灯をかざして何度も呼んだが返答がなかった。ベンチには一人。西公園の陸橋の下55歳男性。「センターに入ることを市の職員からしきりに勧められたが、そこにいる3ヶ月の間に仕事を探さないとすぐに出されるそうなのでやめた」とのこと。旧図書館奥のテント小屋に長居している老人。「炊き出しに行ってみたいが、自分は年金をもらっているのだからそのことをやっかんで来るのがあるからいけない」といつもの口調で言う。おむすび、ゆで卵、みそスープの他に、煮炊きもしているのでカセットボンベと米なども置いてくる。橋の下のハウスの皆さんは4人入れ替わっていた。前の住人はセンターに入ったとのこと。新顔に20代の若夫婦がいた(20代のホームレスも珍しくない)。煮炊きを盛んにしての食事中だったので米やボンベ、ローソク等を置いてくる。勾当台公園のベンチでミカサさんは変わらず元気だった。この人を10年前から知っているが、不思議といつも淡々とまた飄々としている。他に、二十歳過ぎの若者が、「支援センターから清流ホーム(仙台市路上生活者支援ホーム)に移って一ヶ月で追い出された」と訴えた。また、ベンチには市の公園管理者名で『荷物撤去命令』の張り紙がしてあった。後日市役所の支援課というところへ行ってみたら『仙台市ホームレス自立支援等実施計画』(平成16年度-20年度)という冊子を渡された。読んでみると、市が国の施策に則ってホームレスの支援と排除を並行して行っているのがわかる。

炊き出し(6月11日)いつも100人来るのが76~77人だった。市の認知は263人。反省会では元ホームレスでアパート暮らしをしている人や生活保護を受けている人は炊き出しから遠慮願うことと、そのための方法が議論になった。

## 7月

### 1 献品 ①衣類(高校職員) ②衣類(小学校保護者)

2夜回り(7月6日) 私はすっかり旧図書館、勾当台コースの専属にさせられた。この日の夜回りから息子も参加した。実は6月の炊き出しから参加したが、夜回り参加は初めてだった。仙台で夜回りを始めた時に「いつか息子を夜回りに連れてきたい」という愚かな父親の夢があった。今回それが実現して、素直に嬉しかった。実は愚息の学校には『ボランティア活動制度』というしっかりした規定があって、年間70時間の活動で2単位取得できるようになっている。一回の夜回り5時間、炊き出し6時間計月11時間をこなしてゆく。※8月までに愚息は34時間稼いだ。大変だ、疲れると言いながらも行けば周囲から褒められたりすることに本人まんざらでもないようである。私は10代のボランティア活動に純・不純は無関係と考えている。単位やポイントほしさで向かった活動の中で、御礼を言われ感謝される内にその活動を楽しみに出かけるようになる。そのことの得るものの方が大きい。また、結果としてのポイントを貯めて大学の進路実現を果たした例も身近で見ている(愚息にその意はないが)。年間のコンスタントな奉仕活動を通して、自己の様々な発見があり、成長のあらゆる可能性の芽が育ってゆばよいのだと思う。

**炊き出し(7月9日)**100名ほどのホームレス。愚息は2回目の参加で仕事の要領も分かってきたようだ。準備ではおむすび作り、五橋公園では衣類配りをこなしていた。「兄ちゃん、ありがとよ」といわれ、照れくさそうである。本人の感想にも「ありがとう、と言われてうれしかった」とあった。

## 8月

1. **献品** 衣類(小学校保護者)

2. **夜回り** (8月10日)アルバイトの入った息子とは、後で合流することになった。スポーツセンターの裏手に駐車して歩き出すと、必ずと言っていいほどすぐにセンターの警備員が声をかけてくる。「ごころうさまです。きょうはいませんよ」と。「はい、ありがとうございます」。そして国際センターの裏手に回るとベンチに必ず一人はいた。西公園の橋下は雨で斜面が滑るので、恐る恐る降りた。一番下の小屋の住人は素っ裸でひっくり返って寝ていた。返事がないので炊き出し案内とおむすびだけ置いて帰った。勾当台の音楽堂には20代のホームレスが3人新顔でいた。夏場はホームレスも入れ替わりが多い時期とされる。

**炊き出し(8月13日)**学校と親側の了解を得て授業で呼びかけて募った本校の生徒(3年)を3人連れて行った。野菜切り・おむすび作り・衣類整理の午前中と、現地では汁物配布と衣類や雑貨配りを手伝っていた。以下に、本人たちの感想を紹介します。(紙面の都合で2名分)

① ボランティアに参加して 3年 佐藤 志保

今回初めて路上生活者の方への炊き出しボランティアに参加してみて、たった半日だけでしたがとても貴重な体験をすることができました。

正直、路上生活者の方と接することに不安を抱いていました。しかしその不安は路上生活者の方々の「ありがとう」の一言で消えました。

ボランティアスタッフの皆とおにぎりを作ったり、炊き出しの準備をしている間もとても楽しかったです。

この日の「ありがとう」がとても嬉しくて、またボランティアに参加したいと思いました。

そして、「ありがとう」が私にとって魔法の言葉になった日でした。

② 炊き出しに参加して 3年 目黒 ゆり恵

8月13日にボランティアとして炊き出しの手伝いをしてきました。

最初はどんな人がいてどんなことをするのか分からずすごく不安でいっぱいでした。でも教会に行ったら、おばさんの方々が「あれやって」「これやって」と優しく指示してくれたのでとてもよかったです。

ホームレスの人たちの食べ物を作り終わってから五橋の公園に行ってみると、もう既に行列ができていてびっくりしました。公園の中に入ってみると、手や足が汚れていたり服がすり切れていたりとかがあって、とてもかわいそうな気持ちになってきたり、始めてみたこともあって恐怖という気持ちにさえなってしまう思わず顔が引きつってしまいました。

この体験を通して、皆が裕福に生活しているわけではないことを心で感じました。

とてもよい体験ができたと思います。

**次回炊き出しは9月10日です。献品がありましたらお願いします。**